

J A秋田ふるさと自己改革工程表

J A秋田ふるさとは平成26年度より、組合員との徹底した対話に基づいて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

令和4年度からは、組合員との対話に基づく自己改革実践サイクルの取り組みを開始し、重点目標と成果指標・目標値を設定して実践しています。主な取り組みは以下のとおりです。

農業者の所得増大・農業生産の拡大		農業者の売上増加・コスト低減につながる取り組みを実践しています					
直販取引・全農買取・通信販売サイトを通じた主力品目野菜の販売		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
対象者：農産物生産者		420百万円	432百万円 (102.8%)	430百万円	434百万円 (100.9%)	440百万円	450百万円 (102.2%)
令和6年度	440百万円						
超大型規格農薬の普及拡大を通じたコスト低減		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
対象者：大規模経営体		目標	実績	目標	実績	目標	実績
令和6年度	1,200袋	950袋	1,317袋 (138.6%)	1,000袋	1,182袋 (118.2%)	1,200袋	1,060袋 (88.3%)
銘柄集約肥料の取扱拡大を通じたコスト低減		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
対象者：必要とする全ての者		目標	実績	目標	実績	目標	実績
令和6年度	30,000袋	25,000袋	26,432袋 (105.7%)	27,000袋	26,276袋 (97.3%)	30,000袋	24,811袋 (82.7%)
地域の活性化		地域の基幹産業である「農業」の活性化につながる取り組みを実践しています					
地域農業振興の応援団の拡大（地域の農業振興を応援する意思確認）		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
令和6年度	新規250人／年	目標	実績	目標	実績	目標	実績
		250人	234人 (93.6%)	250人	205人 (82.0%)	250人	265人 (106%)
経営基盤の確立・強化		J A経営における、安定的な収益性確保につながる取り組みを実践しています					
場所別損益および施設利用状況等に基づく拠点別の経営改善		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
令和6年度	経営資源調査に基づいた 経営資源再配分による収支改善	目標	実績	目標	実績	目標	実績
		・1出張所再編 ・再配分案策定	・1出張所再編(100%) ・経営資源再配分案策定について協議	再編検討継続、 再配分案策定、 実行	・協議継続	・再編検討 継続 ・再配分案 実行	・協議継続
信用事業の効率化		目標	実績	目標	実績	目標	実績
令和6年度	営業店システム(事務支援・遠隔相談・貸出) の稼働・費用削減	・貸出システム全店導入 ・遠隔相談システム全店稼働	・貸出システム全店稼働 ・遠隔相談システム全店稼働	・信用事業端末 (営業店システム対応) 導入	・令和6年度設置へ ・営業店システム稼働 ・事務手続研修実施	・営業店シ ス템稼働 ・効率化店舗 運用開始はR7 年度から (1店舗)	・営業店シ ス템稼働 ・効率化店舗 運用開始はR7 年度から (1店舗)
対話・意思反映		正組合員と准組合員が一体となったJ A運営を実現する取り組みを実践しています					
項目		令和6年度計画			令和6年度実績		
組合員アンケート		2回／年			1回 ・11月1,419名宛[正組50代]発送、187名回答		
支部座談会		2回／年			・1回目…延べ150会場、1,379名出席 ・2回目…延べ166会場、1,402名出席		
常勤役員と正・准組合員との対話		・地区運営委員会2回／年 ・JA運営委員会2回／年 ・各生産部会会議等での対話 ・農業法人、集落営農組織訪問巡回 1回／年(11月、60法人・23組織)			・地区運営委員会2回延べ156名と対話 (うち准組合員5名) ・JA運営委員会2回延べ36名と対話 ・生産部会、協力組織等通常総会および意見交換会にて対話(延べ24組織、延べ544名) ・農業法人、集落営農組織訪問巡回実施 (7月～11月、54法人・14組織)		